

令和5年度第1回社会教育委員会議事録

第1回社会教育委員会議事概要

○開催日時 令和5年5月18日(木) 13時30分～16時00分

○開催場所 舞鶴市役所 中会議室

○出席委員 阿部委員、井ノ口委員、江上委員、田中委員、谷口副会長、畠中委員、福原会長
藤村委員、渡辺委員

○事務局等 福田部長、吉田室長、三方室長、村尾課長、佐藤担当課長、堂田担当課長
松本担当課長、山本課長、有田課長、堀江係長、山崎、山本

1. 挨拶

(福原会長)

急に熱くなってきた。5/8からコロナウイルスが感染法上2類から5類になり、活動が活発になってきた。本日は今年度の会議の方向性を決めたい。会津若松で、宿題カフェというところに行った。運営を完全無料です中で協賛を求める際、「赤の他人の子供の居場所ではなく、社会の宝物を育む場所」をコンセプトにと言われていた。表現一つでこんなにも受取り方が変わるのかと感じ、社会教育でも考え方ひとつ、とらえ方ひとつで変わると思った。

(福田部長)

公民館は地域のコーディネーターとしての役割を果たす必要があり、昨年度は大浦、まなびあむで地域に必要とされる公民館について議論していただき、感謝している。近年の社会では、つながりの難しさを指摘されており、全国的に現役世代の社会参加が課題。各世代がつながり、地域に関心を持つことが大切で、社会教育における学びを通じた人づくりに期待している。

≪自己紹介≫

(福原会長)

5期9年目になる。

(谷口副会長)

7期目になる。中学のPTA会長になった。福原会長とは逆のキャリアだが、会議でも活かしていければと思う。

(阿部委員)

昨年度から委員になった。耳が悪く補聴器をつけているので、聞き返すことがある。

(井ノ口委員)

昨年度から委員になった。今年度はなるべく参加したい。

(江上委員)

3期目になる。大阪に移ってから続けている。

(田中委員)

2期目になる。公民館で講師をしているので、公民館が楽しくなればと思う。

(畠中委員)

3期目になる。朝来幼稚園で子どもと遊んでいるが、地域の中で子どもたちをどう育てていくかを大切にしたい。

(藤村委員)

3期目になる。地域の子供と一緒に市民目線でいきたい。

(渡辺委員)

スポーツを通して社会教育を考えたい。

2. 報告（事務局）

(1) 令和5年度中丹地区社会教育委員連絡協議会日程等について

→村尾課長より説明（資料 P1～3）

(2) 令和5年度生涯学習関連の主な事業計画について

→各課より説明（資料 P5～22）

(福原会長)

各課の説明で質問等あるか。

(阿部委員)

四都大会の中で、4市がそろわないものがある。自分の出た種目も初めてそろわなかった。今後もそろわないことが想定される中で、どのような考えか。

(有田課長)

選手集めに苦勞している種目がある。今年度は17種目実施し、スポーツの普及進行、4市の交流が一定果たされたと感じる。しかし、過去と比べスポーツの環境も変わっており、4市の中でも大会の運営について、アンケートなどを実施しながら検討しようという意見が出ている。

(阿部委員)

今後も大会を続けていくために、運営について議論が必要な時期だと思う。昨年の70回大会を節目にして、大会を広げていってもよかったかなと思う。剣道の中では4市だけでなく、北部全体の大会としてもいいのではという意見も出ている。

(谷口副会長)

社会教育の目線で見ると、図書館基本計画の中に建議のキーワードはどれくらい加味されているのか。市役所の中でどれくらい連携をとっているのか。例えば、課題解決型や現役を巻き込むという表現をされているが、今の図書館を拠点とされている方からすると、感情で判断されている部分が多く、理屈があまり入らないと感じた。人がいきなり現役世代になるのではないので、ライフステージの中で図書館がどう寄り添うのかという説明を増やしたほうがいい。建議の中では、人が育つ中で社会教育をするために、ゆるやかなつながりなどテーマとしているが、これとどのように関連しているのか。

(山本課長)

基本計画の原則として、社会的包摂の一役を担うとしている。全ての方に情報が届くよう、支援体制を整えたうえで、サービスを提供する。課題解決や現役世代についての事だけを原則としているのではなく、これまでの利用者も含め、すべての人たちにサービスを提供することを原則としている。

(谷口副会長)

図書館における社会的包括とは何か。今図書館を利用されている人以外に対して、具体的な動きがあってこそその包摂だと思う。図書館で実施を計画しているものがあって、それが公民館で行っているものとのように関連しているのか。

(山本課長)

図書館のサービスを様々な人に届けるというイメージ。例えば、拡大図書の設置による目が見えにくい人への支援、司書設置による各相談に合わせた関係機関の紹介、電子図書の普及を実施している。開館時間の延長も必要に応じて実施する。外国人に対してのサービスも検討している。すべてのサービスが整っているわけではないので、今後必要に応じて検討する。

(藤村委員)

高校生の居場所づくりとあるが、具体的にはどのようなことか。

(村尾課長)

西駅を高校生が毎日利用していることから、高校生とのワーキングを実施している。その中で、勉強のスペースや、楽器の練習ができるスペースがほしいなどの意見が出た。楽器の練習に関して、西市民プラザの紹介もしており、この2施設を高校生にとって居心地のいい場所にするすることで、西市民プラザと西駅を結ぶ動線ができるので、商店街を高校生が歩くようになる。こういったことで地域の大人と関わることを増やし、大学へ行った後、舞鶴へ帰るといった選択肢を増やすことを目指している。

～ 休憩 ～

3. 議題

(1) 令和5年度社会教育委関係団体への補助金の交付について

→村尾課長より説明

(畠中委員)

舞Pは保護者会からと補助金が収入で、これを事務局が執行しているのか。

(井ノ口委員)

事務局が予算をブロックごとに分配している。

(渡辺委員)

実績報告書の中で、まとめ及び来年度への引継ぎ事項とあるが、ここは趣旨目的と繋がっていると思うので、最終的にどんな効果を得られたのか、どのようなことが課題だったのかを具体的に記載してほしい。そのほうが次に繋がるのと、補助を出す意味も感じられる。

(佐藤担当課長)

具体的に記載してもらい、そこを評価するようにする。

(福原会長)

他に質疑等ないので、補助については承認する。

(2) 社会教育事業（公民館事業）についての意見交換

→佐藤担当課長説明（意見書資料）

(阿部委員)

大浦での会議の後、ふるるの代表と出会った。若浦、大浦地区の子供たちが高校卒業後、地元に戻って来ないということで、今は大浦小学校と取り組みをしていると聞いた。小さなことでもまずやってみることが大切だと感じた。

(井ノ口委員)

学校の立場で言うと、大浦小のように学校と地域と一緒に取り組む形はなかなか難しい。ただ、色々な意見をいただくと、その中で学校としてできることを考えるので、情報共有をしてもらいたい。学校としては地域と関わりたいと思っている。

(江上委員)

学校運営協議会など、学校と地域が情報共有できる場があればいいと思う。各課の報告からもやっていること自体はいいと思うが、それぞれの課題や将来像を共有できていないと感じる。

(田中委員)

ちょっとコンサート後の場が大切だと思う。前回まなびあむで実施したときに、椅子は片付けられなかったが、その場に職員もいていただけるといいなと感じた。以前、ちょっとコンサートの様子をInstagramに上げられたことを演者さんがすごく喜んでおられ、後日まなびあむへ御礼を言いに行くと聞いた。こういったことも各館で共有できればと思う。今年度は館長が多く変わられたので少し心配。加佐の方から、ふれあいサンデーや敬老会がだんだん小さくなってきて、寂しいということを知った。地域の人が集まり、みんなで楽しめる場がもう少しあればと思う。総文でもそうだが、平日の利用者が少ないので、そこが増えるように西駅の話でもあったような、学生などの拠点になればいいと思う。

(畠中委員)

まなびあむのように街中で地域に入ることが難しいところもあれば、大浦のように地域と在るのが当たり前なところもある。今後社会教育を進めていくためには公民館は必須で、各地域の特性を踏まえた上で、課題などを共有して、地域に合った公民館運営が必要だと思う。各課から色々説明を聞いたが、全体的なきれいな話ではなく、本当に各課ができることは何で、何をやりたいのかを聞きたい。公民館は館長次第で変わると思うので、想いと目標をもってやってほしい。

(藤村委員)

大浦とまなびあむでは地域性が全然違うし、大浦と朝来でも違う。公民館は地域に根差して、ニーズを捉えた上で、とんがっていてもいいと思う。そこを考えると、地域の人が館長になったり、想いをもった人になるべきかなと思う。1年で交代をするのはなかなか厳しい。

(渡辺委員)

教員時代だが、大浦小学校でグランドピアノが欲しいというところから、大浦地区でバザーをやられていた。その時はすべての家庭を回って物を集めたり、漁協から魚も出ていたので、街中から魚を買いに来られる方もいた。大浦でトライアスロン(?)の大会があったときには、地域全体でコースの草刈りなどの大掃除をしており、当時はこういったことをやろうと言う人がいた。今は、公民館が声を上げ

て、地域の取り組みをしていくべきかなと思う。現在の公民館活動は、地域住民にとって形骸化しており、生活に根付いていないと思うので、そこの印象から変えていくべきだと思う。

(谷口副会長)

大浦、城南、加佐で介護予防の体操をしている。もともと舞鶴市が始めた事業だったが、色々な形を経て、10年ほど運営している。舞鶴市としては、自分たちで介護予防のサークルを立ち上げてもらうことが目的だったが、参加されている方が求めているのは集う場所だった。その思いが最初からまったく違ったので、サークルとして何が必要かなど、10年の中で色々な議論をして、やっと形になった。こんな風に、実現するまで伴奏支援することが、本当の課題解決だと思う。課題解決はそんなすぐにはできないことではないので、長い目で支援することが必要で、そうすることで民度も上がる。その上で今回は、大浦会館側の協力もあり、施設側と利用者側の思いが一致したことも大きかった。ここまで作り上げるためには、やはり小さなことを積み上げることが大切で、そこに携わる人が重要。まずは会話ができる土壌を整える必要があると思う。

(阿部委員)

まなびあむには戦略がない。八島商店街の中にヘルストロンを利用できる場所があり、とても多い人が利用している。まなびあむの中にもヘルストロンがあり、それを人集めのツールとして利用したほうが良いと思う。やはり地域の特性を理解することが重要。

(福原会長)

皆さんの意見を今期の意見書に反映する。まなびあむと大浦を見て、やはり地域性の違いを感じた。その上で、今年度の進め方について意見を。

(島中委員)

色々なことをするのは難しいので、1・2公民館にしぼって意見を出して、盛り上げられたらと思う。まなびあむは見た目が寂しいので、まなびあむの良さをアピールできる見た目を意識してほしい。

(藤村委員)

公民館は絞ったほうがいい。会議を公民館でやるなどしたい。

(渡辺委員)

公民館別に絞った進め方でいいと思う。

(阿部委員)

加佐公民館がいいと思う。

(井ノ口委員)

館長との懇談をしたい。どんな考えを持っているのかを聞きたい。

(田中委員)

皆さんと同意見。まなびあむのヘルストロンも、朝並ぶぐらい利用者がいる。

(江上委員)

アンケートやヒアリングで、各館の意見をまとめることができればと思う。

(谷口副会長)

アンケート結果などを踏まえて、館長の意見を聞きたい。館長会議を一度見てみたいと思う。館長は地域の中に飛び込んで、印象に残る必要がある。どんな形でもいいのでキャラ立ちをしてほしい。各館長がどんなマインドを持って、どんなプロセスを踏んでいるのかを知りたい。表向きな事業内容も大事だ

が、裏方としてどのように動いておられるのか気になる。今年度まなびあむに毎月行くので、職員と人間関係を築くことができればと思う。

(福原会長)

地域の特性に応じた事業展開が必要。各館全てを見て、意見交換することは難しいので、アンケートなどを基に議論できればと思う。今年度議論できる範囲は意見書に反映し、議論の継続が必要なことは、次期社会教育委員会議への申し送り事項とする。

(畠中委員)

館長の話聞く場はすぐに欲しい。

(佐藤担当課長)

次の社会教育委員会議に参加してもらおう。

(福原会長)

一度社会教育委員会議を見られた後、すごく変わられた館長さんもいる。そんな風に、会議を見ることで、各館長の考え方にもいい影響があればと思う。

(佐藤担当課長)

公民館事業に対してのヒントを、社会教育委員会議でもらったと言われてる館長もいる。やはり、実践者の意見を聞くことが重要だと思うので、積極的に会議へ出席してもらおう。

(3) その他

→特になし

5. その他

(1) 中丹地区社会教育委員連絡協議会総会について

(2) 京都府社会教育委員連絡協議会総会について

→事務局より説明